

<地場産農産物の加工・販売に取り組む事例>

〇たけのこを使った地域振興

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	福岡県 ^{みやこぐん} 京都市郡 ^{まち} みやこ町 ^{しもがわち} 下河内			
協定面積 8.1ha	田（100%）	畑	草地	採草放牧地
	水稲、麦等			
交付金額 170万円	個人配分			50%
	共同取組活動 （50%）	農道、水路管理費		20%
		多面的機能増進活動費、その他		24%
		共同利用機械購入費		6%
協定参加者	農業者 30人、営農組合（構成員42人）			開始：平成12年度

2. 取組に至る経緯

下河内集落は総戸数 34 戸（うち、兼業農家 17 戸）で構成され、昔ながらの棚田耕作地が多く、2 段畦などがあり、畦畔面積の広い急傾斜地である。

高齢化が進み、耕作の不便な山間部の農地が荒廃する恐れが出てきたので、基盤整備後の優良農地の保全と農業生産活動の維持を可能にするため、中山間地域等直接支払制度を導入し、協定参加者が農地の保全に努めてきた。

また、集落内の公園の清掃等においても共同管理が行われるようになるなど、集落の活性化が図られてきた。

3. 取組の内容

本集落は制度導入と前後して営農組織を設立している。取組内容としては、定年帰郷者等が農業に従事することができる環境の整備や転作田を活用した麦、大豆、そばの作付け等、生産活動の維持による農地保全に努めるとともに、農地法面の崩壊を未然に防止するための定期点検、年 3 回（5 月、7 月、9 月）の農道・水路の草刈りなどを行っている。

また、勝山地区の粘土質な赤土やカルスト台地のおいしい水と瀬戸内海式気候のあたたかい雨など、恵まれた風土の中で育ち、古くから郷土の味として親しまれている「たけのこ」について、たけのこ掘りの体験活動を行うことでその美味しさを P R し、販売の推進を図ってきた。

今後は、直売所を建設し、イベント等を実施することで、たけのこの加工品など付加価値を高めた農産物の販売推進を行い、農業所得の向上、農業生産活動の維持を図り、更なる地域の活性化につなげたい。



【下河内集落】



【たけのこ】

【集落の将来像】

- 新規就農者を確保し、核となる人物を育て、営農組合と一体となって集落を守っていく。
- 集落の特産物であるたけのこを活用した地域のPRを行い、更なる地域活性化につなげる。



【将来像を実現するための活動目標】

- 集落の特産物であるたけのこの加工・販売を行い、地域で新規認定農業者を育成する。

【活動内容】

農業生産活動等

農地の耕作・管理（田 8ha）

個別対応

水路・作業道の管理

- ・ 水路 3.0km、年 3 回
清掃、草刈り
- ・ 道路 3.0km、年 3 回草刈り

共同取組活動

農地法面の定期的な点検
（年 2 回及び随時）

共同取組活動

農地法面の崩壊を未然に防止
するため、集落内の担い手を
中心に定期的な点検を行う。

共同取組活動

多面的機能増進活動

周辺林地の下草刈り
（約 0.5ha、年 1 回）

個別対応

農業生産活動の体制整備

地場産農産物等の加工・販売
たけのこの加工・販売など

共同取組活動

認定農業者の育成
（集落の認定農業者の育成：
目標 1 人）

共同取組活動



集落外との連携

- 保育所、学校等のふれあい行事に積極的に出向き、野菜の植え付けや、作り方の指導を行っている。

4. 今後の課題等

有害鳥獣対策によるイノシシ防止柵を共同設置したが、近年、猿による被害が増加しており、更なる対策を実施したいと考えている。

【第 2 期対策の主な成果】

- ・ 集落全体での生産体系の整備による営農の効率化（大型機械の共同利用による低コスト化など）
- ・ イノシシ防止柵の共同設置